

# DOYU

I W A T E

特別  
編集号  
Oct.

2021  
Vol.153  
同友いわて

## 特集 自立的で質の高い 企業づくりをめざそう ～岩手同友会の魅力を使い尽くす!～



# 同友会は“自立的で質の高い” 企業づくりをめざしています

**岩手同友会は誕生から30年を迎えます。**

1991年11月に産声をあげた岩手同友会。2021年9月に創立から30年を迎えます。

本来は記念式典の開催を予定しておりましたが、感染症拡大が収まるまで、一年間式典の開催を延期させていただき、状況が落ち着いた中で対面での開催を予定しております。

そこで、同友いわて今号では「岩手同友会の魅力を使い尽くす！」をテーマに11ページの特集記事を組ませていただきました。ぜひ新たな学びのスタートに、企業づくりの実践にご活用ください。

## よい会社づくりをめざす経営者の団体です。

中小企業家同友会は「中小企業の経営を良くしたい」という目的のもと、1957年4月に東京で創立され、1991年11月に岩手県中小企業家同友会（以下同友会）が誕生しました。現在、全国47都道府県約47,000名が加盟。岩手県下には5支部3地区があり、県内各地で会員が活動しています。一人ひとりが主人公として知恵と経験を出しあい、本音で謙虚に学びあい、学んだことを自社に取り入れ、実践して、自社の経営力強化に役立てています。

## 「自主・民主・連帯」の精神で運営しています。

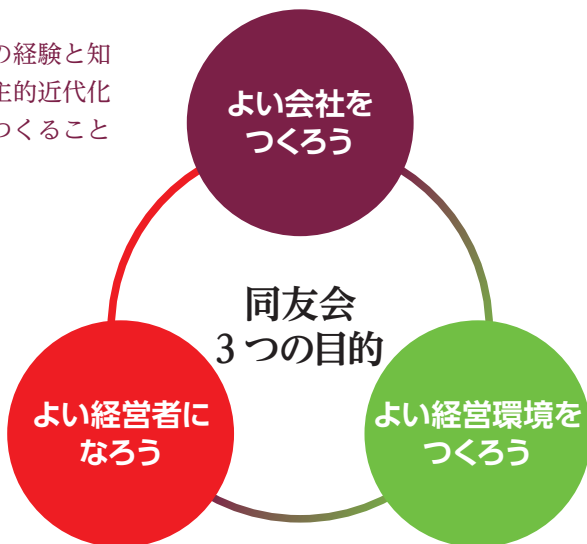
同友会は、会員に対して何ら強制はしません。「自主・

民主・連帯」の精神で、会員自らが会の運営を行っています。民主的参加が原則で、どの支部地区例会・委員会・研究会・部会にも自由に参加できます。思想、信条、性別、業種、企業規模を問いません。入会されたその時から、他の会員と対等な立場で参加できます。

## 国民や地域と共に歩む企業づくりをめざしています。

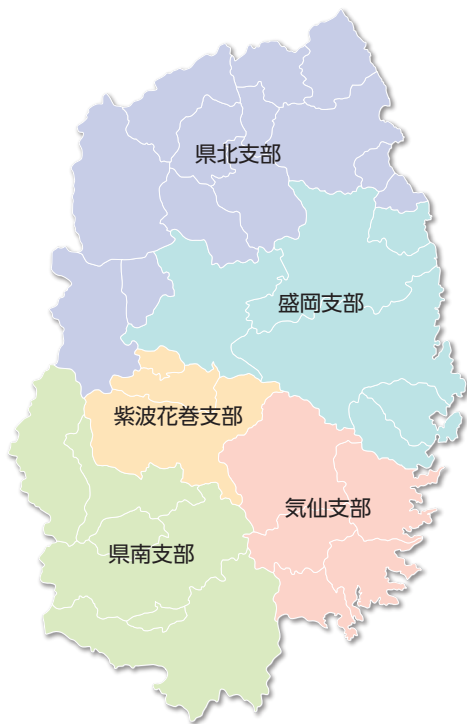
同友会は、豊かな国民生活の実現に貢献し、提供する製品やサービスが人々の暮らしの向上と地域経済の発展につながる中小企業をめざしています。また、雇用の創造や特色ある地域づくりをめざし、岩手経済の発展のために自治体や他団体・地域の人々と連携した活動を進めています。

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と、強靱な経営体質をつくることをめざします。



同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。



「岩手同友会の支部構成」

## 支部地区が活動の中心

岩手同友会における主な活動は、岩手県を5つに分けた支部で展開しています。地域の歴史・文化・産業と同友会理念が掛け合わせり、地域に応じた学びあいの活動、地域活性化のための活動を行っています。



## 支部例会

経営の本質的課題を深く掘り下げて討論する

## 学びの場



岩手同友会の主催する例会は単なる経営者交流会ではありません。悩みや課題をもつ経営者が、相互の経営体験を交流し、謙虚に学びあうことに最大の特色があります。

例会の報告者は、私たちと同じ経営者です。決して流暢とはいえない報告にこそ、経営の本質的な課題が存在しており、その後の各グループでの討論に繋がっていきます。

グループ長の進行のもと、お互いが本音で議論し合うことでそれぞれの感じ方、受け止め方の違いを深く理解して初めて経営者の琴線に触れる学びの場となります。

### 会員による生きた経営体験の報告

同じ悩みを持つ経験者のリアルな経営体験の報告が聞けることに大きな特徴があります。

同友会では「会員は辞書の1ページ」と言われています。つまり百人百様の異なる経営体験があり、その体験を学び合うことが生きた学びになります。

### グループ討論

報告者がいかに素晴らしい話をするかというよりも、討論でいかにそれを深められたかに意義があります。

グループ討論参加者のそれぞれの捉え方の違いを知り、討論の中から考え方の違いを理解し、その良さを受け入れることができます。

1

### 例会の企画

例会の目的を明確にするため、支部地区では年間テーマが立案されています。この例会について企画・運営に責任をもって進めるのが支部役員会です。

2

### 報告者の選出

同友会の月例会は会員の経営体験の報告とそれを受けてのグループ討論が基本となります。報告者は、原則として同友会の会員である経営者から選出します。

3

### プレ例会

テーマとの整合性をとるため、プレ例会が行われます。例会での学びをより深めるためにも重要なプロセスとなります。

4

### いよいよ例会本番

参加者すべてが主役で、それぞれの役割の中でお互いに学び合います。報告者の話が生きるかどうかは、主として聞き手の責任となります。

5

### グループ討論

報告をどこまで深めて議論しあえるかが、グループ討論の真価です。経営者それぞれの経営手法・人生観・哲学など、参加者の琴線に触れる学びになります。

## 専門委員会・研究会

# 例会で発見した経営課題を解決する

自らが学び成長する場に



専門委員会では、支部地区例会で発見した自社の経営課題を解決に導くための様々な学び合い活動を行います。支部地区会を横断して企業経営における普遍的な課題について議論し、それぞれの委員会主催の学習会や研修会の開催、支部地区例会の支援、全県例会を開催します。また専門資料や情報の提供など会員の皆様に発信を行います。

岩手同友会では、10の委員会・研究会がそれぞれの専門分野を深く学び、発信しています。会員は誰でも、どの専門委員会・研究会にも所属し参加することができます。

委員会はその運営が目的ではなく、委員個々の知識や同友会に蓄えられた理念と経験に基づいて議論し、委員自身が学び成長する場でもあります。

## 10の委員会・研究会

- 経営労働委員会
- 共同求人委員会
- 社員共育委員会
- ダイバーシティ委員会
- 政策委員会
- 広報委員会
- 組織委員会
- 総務委員会
- 環境経営委員会
- エネルギーシフト(ヴェンデ)研究会



## 部会

# 興味・関心によって自由に参加・交流

### 青年部会



若い経営者・起業家や、後継者として励んでいる二代目、三代目の経営者は独特の悩みや課題をかかえています。こうした悩みや課題にこたえるために青年部会が活動を行っています。年輩経営者から謙虚に学び、経営者としての器を磨き、企業の優れた後継者、地域の担い手をめざして育ちあうことがテーマとなっています。

### 女性部会



女性経営者や経営者夫人、女性幹部社員が経営問題を中心に学びあい、人間的に高まりあう場として女性部会が活動をしています。毎月開催される女性部主催の例会、144ダイガクは、会の内外から注目を集めています。

### 農業食料生産部会



農業食料生産部会は、県内全域で農業や食の生産販売に関わる経営者や、農食関連業の皆さんを応援する経営者が集い、また互いに訪問し実際に生産物を食べ歩く中で、次世代に繋ぐ農業食料のあり方を共に考え提起して行きます。

# 経営指針の成文化と実践

# 「人を生かす経営」と強靱な経営体質づくり



また、経営指針を確立し、実践を続け発信することは、地域で暮らす社員やその家族、新たに仲間を迎える共同求人活動、そして地域社会と共に歩み、次代を切りひらく企業にとってなくてはならないものとなっています。

経営指針実践塾では、経営者同士が集い、実行委員と受講生という関係のなかで、5ヶ月の時間をかけて、経営指針の成文化と実践を進めています。中小企業は、持ち前の創造性と機動力でこの激動の荒波を乗り越え、進路を切り拓いていかねばなりません。そのための経営指針の確立と、経営者の適切なりーダーシップのもとで、労使が力を合わせて強い体質の企業の実現をめざします。

経営者同士の真剣なかかわり合いから生まれる気つき

## 「経営指針」の4つの構成部分

企業の基本的姿勢を示す **「経営理念」**

未来のありたい姿を描く **「10年ビジョン」**

時代の流れを察知し未来を切り拓く **「経営方針」**

目標を達成するための具体的な **「経営計画」**

## 経営指針成文化の枠組

経営理念 (科学性・社会性・人間性)

10年ビジョン

経営環境分析

経営方針

自社の経営力評価

経営計画 (中期・単年度)

## 岩手同友会 学び合いの総合的实践

経営指針の成文化・実践

支部地区例会

委員会・研究会

部会

共同求人

地域で新しい仕事と雇用を創出する

社員共育

社員と共に学び育ち合う

- ・ 経営指針基礎講座 (3月)
- ・ 経営指針の成文化と実践の会 (4月～7月)
- ・ 企業変革支援プログラム学習会



企業変革支援プログラム学習会



### 人を生かす経営

1975年に中小企業家同友会全国協議会が発表した「中小企業における労使関係の見解」をもとにした「人間尊重経営」のことを言います。その第一に「経営者が経営姿勢を正すこと」、2つ目に「経営指針を成文化し実践すること」、3つめに「社員を最も信頼できるパートナーとして人間的に成長し合うこと」を掲げています。

- ・ 合同企業説明会 (3月～5月)
- ・ 高校生スキルアップ講座
- ・ 先生方との共育懇談会
- ・ 大学・短大・専門・高等学校訪問
- ・ 学生・生徒インターンシップ 職場体験

- ・ 新入社員合同入社式・研修会 (4月)
- ・ 新入社員フォローアップ研修会 (9月)
- ・ 社員共育塾 (6月～9月)
- ・ 中堅・幹部社員共育講座 (10月～12月)
- ・ 同友会大学 (12月～2月)

## 【同友会大学 16 講座・実際の講座内容】(参考)

オリエンテーション・何を学ぶか

- I. 世界・日本経済と中小企業 (2 講座)  
第 1 講「激変する世界経済と中小企業」  
第 2 講「地域に生きる中小企業と経営指針の役割」
- II. 経営戦略と企業づくり (2 講座)  
第 3 講「情勢をどうみるか、中小企業の課題を考える」  
第 4 講「岩手県経済と中小企業の役割」
- III. 科学と人間 (4 講座)  
第 5 講「エネルギーシフトと新たな仕事づくり」  
第 6 講「産学連携と新産業づくり」  
第 7 講「暮らしを守り、豊かな未来を創る電気化学、エネルギー」  
第 8 講「イノベーション創出と産学連携の人材育成」
- IV. 人間と教育 (4 講座)  
第 9 講「生きがいある人生を創造しよう」  
第 10 講「教育の本質とは何か」  
第 11 講「人が育つ条件を考える」  
第 12 講「共に学ぶ同友会の教育理念」
- V. 中小企業運動と地域の未来 (2 講座)  
第 13 講「岩手県の歴史と産業」  
第 14 講「中小企業憲章と中小企業振興基本条例」
- VI. 総括講義  
第 15 講「中小企業の未来と私たちの課題」



同友会大学



幹部共育講座



社員共育塾

## 【中堅幹部・幹部社員共育講座・実際の講座内容】(参考)

- ①第 1 講 「企業をとりまく現状を正確につかむ」  
(鳥の目・虫の目で自社を見つめる)
- ②第 2 講 「混迷の中からあらたな仕事をどう生み出すか」  
(経営戦略の再構築)
- ③第 3 講 「経営者と幹部社員が共に豊かな人生を実現するために」  
(人間力経営)
- ④第 4 講 「持続可能な企業であり続けるための条件とは」  
(全国の教訓に学ぶ)



新入社員研修会 (オンライン)

## 【社員共育塾・実際の講座内容】(参考)

- ①第 1 講 「私たちは何のために働くのか」
- ②第 2 講 「私の人生設計・私の夢①」
- ③第 3 講 「私の人生設計・私の夢②」
- ④第 4 講 「生きるめあてについて考える」

## 【新入社員研修会 1泊2日・実際の講座内容】(参考)

- ①第 1 講 「人間としてのマナー (基礎編)」  
「私たちは何のために働くのか part.1」  
実現したい夢・今年一年大切にしたいこと
- ②第 2 講 「社会人としてのマナー (応用編)」  
「私たちは何のために働くのか part.2」  
自分の人生を豊かにするために
- ③第 3 講 「私の人生設計・私の夢を形に現す」  
仕事で実現したいこと、人生で実現したいこと
- ④第 4 講 「私の 10 年ビジョン・人生設計の作成」  
自分の頭で考える～実現へ向けた具体的な取り組み



新入社員合同入社式

社員とともに成長する

同友会は、社員を最も信頼できるパートナーとして考え、高い次元での共に育ち合う教育（共育）を重視し、社員教育に取り組んでいます。新入社員の合同入社式に始まり、各階層別に幹部社員教育まで、経営者と一緒に学び合える講座を設定し丁寧なかわりあいができる場を準備しています。



### ◆同友会大学 (対象: 幹部社員・経営幹部)

現在のような時代の転換点、複雑に揺れ動く情勢をしっかりと見据え、課題を正確に認識し、素早く対応する力量を養うことをめざしています。同友会大学では経済・経営・法律・科学・教育等の基礎を学び、これからの社会と経営の発展方向を洞察し、「共育」力を養うことをめざしています。一人ひとりの受講生自身の生き方を問い、自己変革を迫るという点で即効的効果があります。またグループ討論を通じ異業種の幹部社員、経営者の考え方に触れることで、大きな視野で物事を捉える力を養うことができます。



### ◆中堅幹部・幹部社員共育講座 (対象: 中堅幹部・幹部社員)

経営者と中堅幹部・幹部社員（将来の幹部候補も含）が企業をとりまく課題について共通の認識を持ち、経営指針の実践につなげ、最終的には経営者と幹部社員がもっとも信頼できるパートナーとして成長し合う関係をつくることをめざしています。

#### 【内容】

- ① 自社をとりまく現状を正確につかむ
- ② 自社の経営課題を正確に捉え、共に考え取り組んでいける土壌をつくる
- ③ 自社の経営指針をもとに新たな戦略・仕事を創出するための考え方を学ぶ機会とする
- ④ 経営者・幹部社員が共に本質的なものの見方、考え方を学び、人間力を高め合う
- ⑤ 将来にわたり持続可能で、優れた人間力を有する企業であり続けるための柔軟で強靱な組織経営をめざす契機とする



### ◆社員共育塾 (対象: 入社2年から5年前後の社員)

入社2年から5年程度の社員を対象に社員共育塾を開催しています。入社から数年が経過し多忙な日常を過ごす社員にとって未来への展望を具体的に描くことは、仕事のやりがい、生きがいに直結する大切なことです。そこで、他社の同世代の方々と語り合う機会をもち、あらためて自らのめざす「大きなめあて」を明確にすることを目的としており、社員と経営者が深く自分自身と企業の未来を語り合い関わり合う契機になることをめざしています。

#### 【内容】

- ① ものごとの本質のとらえ方や見わけ方、自分の人生や生きがい、働きがいについて考え方を確立する
- ② 自社を見つめ直し、自分の役割や立ち位置を確認し、自らの言葉で語る
- ③ 社内に共に育ちあう環境をつくり、人が育つ社風を確立する
- ④ 他社の社員との交流を通じ、連帯を深め、あてにし、励まし合う機会にする



### ◆新入社員フォローアップ研修 (対象: 新入社員)

入社後の社会生活をふりかえることで、社会人としての基本を再認識する「フォローアップ研修」では、「職場で取得した知識や技術が、はたして十分に生かしているのか」、また「実際の仕事で力が発揮できているのか」を自己チェックし、新たな学習目標を自覚し設定し直す目的で実施しています。

### ◆新入社員合同入社式・新入社員研修 (対象: 新入社員)

新入社員合同入社式は、毎年会社関係者を含め総勢で100名ほどの参加で人生の門出を祝います。新入社員にとって緊張のなかで、社会人としての新たな一歩を踏み出す自覚と中小企業で働くことの誇りを実感できる場です。

新入社員教育の取り組みのひとつに、一泊二日の研修があります。新社会人としての基礎的なマナー講習はもちろん、「何のために働くのか」を問いかけ、また生きがい働きがいのある人生設計づくりなど、働く意欲にもつながる学び合いを行っています。



# 共同求人

# 経営者がともに知恵を出し合い行動する 共同求人活動

## 同友会の共同求人活動の特長

経営者自らアクションを起こして新卒者を採用していく活動です。

同友会の共同求人活動は、大学・短大・専門学校・高等学校との連携を深め、中小企業に若い人材を受け入れる活動をしています。

同友会の共同求人活動は、経営者自らが主体的に行うことに意義があります。学校との懇談会の開催や学校訪問などを通じて信用を培うのと同時に、「学生にとって魅力ある企業にしよう」とする、その経営者の努力が企業発展につながります。

岩手県内の求人に積極的に取り組む企業を掲載した就職情報誌「ACT」、中小企業家同友会の就職情報サイト「Jobway」などで自社の魅力を発信することで、よりよい人材との出会いにつながります。



## Jobway (ジョブウェイ)



学生と岩手県経済の原動力となる中小企業を直接つなぐ求人情報サイトです。自社の魅力や採用情報を発信することが可能です。

## 就職情報誌 ACT (アクト)



岩手の中小企業の魅力を存分に伝えるカラー版就職情報誌として、県内に5000部発行しています。ネットからも電子ブックとして閲覧できます。

## 合同企業説明会&中小企業展



中小企業が普段どんな仕事をしているかを実際に触れてもらいながら、併設した企業ブースで社長と話せる合同企業説明会を開催しています。

## 高校生就職課外授業



高校2、3年生を対象に、夏休みを利用して就職課外授業を開催しています。人生設計書の作成や先輩社員との体験報告、経営者との面談を通じ、自分の未来構想を具現化します。

## 学校訪問



就職担当の先生方を訪ね、企業の経営理念や人材育成についての考えについてお話しし、地元に残りたいと願う学生や生徒との接点をつくりまします。先生方の理解は大きな力になります。

## 先生方との“共育”懇談会



立場は違いますが、各学校の先生方も経営者も一人の若者の教育に携わる「専門家」です。共に学び共に育つという共通の視点から、教育を考えます。



# 中小企業憲章・中小企業振興基本条例推進運動

## ともに持続可能な地域を実現する

1997年の金融危機から始まった同友会の金融アクセスメント制定運動は全国で100万署名を集め、金融行政を大きく変える契機となりました。このことから学んだことは、日本経済繁栄の原動力は、地域の事業所の99・8%（岩手県）を占める中小企業の発展にあり、そのためには国や自治体の経済政策そのものが中小企業を軸に大転換する必要性に迫られているということでした。

ヨーロッパではEU小企業憲章が2000年に制定され、21世紀の経済発展と雇用の担い手は中小企業にあるとの認識がすでにありました。そこで同友会では、日本においても中小企業を国民経済の豊かで健全な発展の核に位置づ

ける「中小企業憲章」の制定が望まれ、あわせて憲章の精神を地域で実践できる「中小企業振興基本条例」の制定が必要との認識に立ち、2003年から憲章、条例の制定運動を行ってきました。

中小企業憲章が2010年に閣議決定、岩手県でも2015年に中小企業振興条例、2016年に中小企業振興基本計画が制定されました。また県内の14の市町村でも条例が制定され、県内各地で取り組みが広がっています。

また全国でも初めてのJ A岩手県信連との連携協定では、県内の農業経営者の人材育成活動が進み、毎年農業経営塾を共催し次代を担う農業後継者の育成を協同行っています。



## エネルギーシフト (ヴェンデ)

## 地域のエネルギー・資源循環を考える

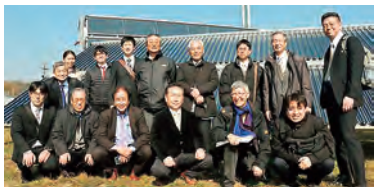
### まずは省エネ・小エネから

人口減少、少子高齢現象が進む中で起きた東日本大震災は、地域の疲弊を更に進め、展望を描くことが非常に難しい状況にありました。

そうした状況下で同友会では2013年秋に、ドイツ・オーストリアの中小企業の実状からヒントを得て活路を見出そうと、欧州視察を行いました。視察先では地域内でエネルギーや食料の循環を実現する、エネルギーシフト(ヴェンデ)の実践が中小企業の活躍で日常のものとなっており、人口が数百人ほどの山あいの小さな村々でも人々の豊かな暮らしが実現していました。

「ヴェンデ」とはドイツ語で大転換を意味する言葉です。地域に生きる人々の人口が大きく変わる中で、有り余るほどにあるわけではないエネルギーや様々な資源も、地域内で使う分だけ自分たちで生み出し循環させる。こうした考え方や生き方の大転換こそが、今必要であることが、視察からわかってきました。

これまでに6回の欧州視察を行い、のべ85名の経営者や社員が実際に現地を訪れました。そして岩手の中小企業でのエネルギーシフト(ヴェンデ)の実践を目的とした研究会も100回を超え、「自社でできること。まずは省エネ・小エネから」と各地で様々な取り組みが進んでいます。



## 全県例会・研究集会・新春講演会



### 地域を越えてともに学び合い、語り合う

岩手県内には8つの支部地区があり、日常の活動はそれぞれの支部地区で行っています。年に数回、全県の会員に呼びかけ、それぞれの地域の持つ性格や特徴も交流しています。より専門性やスケールの大きい取り組みに触れることで、互いに刺激し合い、持ち帰り経営実践することで、人間的にも企業としても成長することをめざしています。

### 各地域の特色が出る研究集会

年に一度、県内各支部が設営担当となり、経営研究集会を開催しています。2018年には気仙支部の設営で、陸前高田を会場に、150名が集い、山林を会場にした現地見学分科会など3つの特徴ある取り組みを報告しました。  
また2019年には紫波花巻支部の設営で、紫波のオガールを会場にエネルギーシフトの分科会、地元食材をふんだんに生かした手作り懇親会、杵つき餅のふるまいなどで大いに盛り上がり、学びを深めるとともに、地域を越えた交流の輪も広がりました。

## 全国・北海道東北ブロック行事



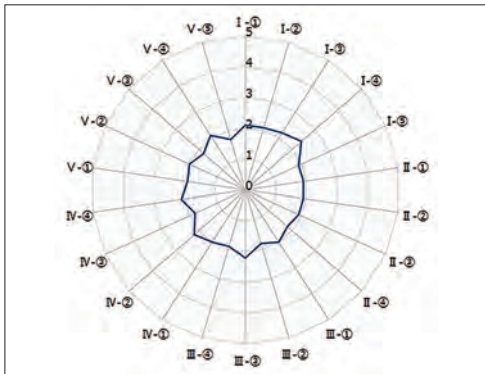
### 中小企業の連帯の力を体感

岩手では2016年、全国総会が開催され、全国から1000名を超える方々が来県されました。全国の皆さんとの交流の場は、連帯感を高め、明日からの経営や同友会活動に新たな意欲が湧き出てきたことは言うまでもありません。全国行事にはどなたでも参加できますので、ぜひ中小企業運動のエネルギーをご体感ください。

# e.doyu (イードュー) で活動の幅を広く深く

**県内・全国の情報を気軽にキャッチ**  
 同友会の全国4万7千名会員をつなぐツールとしてe・doyu(イードュー)という仕組みがあります。会員は誰でも使うことができ、パソコンはもちろんスマートフォンやタブレットから、どこからでもアクセスすることが可能です。  
 毎月20回を超える岩手県内各地で行われる同友会行事の案内や出欠状況の確認、オンラインで行われた例の動画配信など、会員だけが使える機能が満載です。東日本大震災時には、電話が不通の中でもe・doyuの掲示板情報は機能し続け、全国からの支利物資の集約や配送に大きな役割を果たしました。

**自社の経営課題と改善点を即見える化(企業変革支援プログラム)**  
 表示された質問に答えていくだけで、自社の現在の立ち位置が即グラフ化されます。具体的な改善ポイントが見えることで、社員との経営課題の共有と今何に取り組むべきかをスピーディーに掴むことができます。また経年変化を残すことも可能です。



I. 経営者の責任 (経営理念の成文化とリーダーシッププロセス) (0/5)	II. 経営理念を实践する過程 (方針・計画策定プロセス) (0/4)	III. 人を主とする経営の实践(0/4)	IV. 市場
--	-------------------------------------	-----------------------	--------

**I. 経営者の責任 (経営理念の成文化とリーダーシッププロセス)**  
 経営者は、いかに環境が厳しくとも、経営を維持・発展させる責任があります。経営理念・方針・計画を作り、企業の本質をフルに発揮させて、企業の合理化を促進されます。あなたは経営者として以下のようなことを行っていますか？

● 経営理念の成文化と社内の共有

経営理念とは、経営者が自社のあるべき姿(理念)を確立し、成文化して、社内外に示し、社員と共有して、実践していくものです。そのため、経営理念は日常的に社内企業として自社のあるべき姿や使命、存在意義、価値観を明確にしています。そして、それを具体化した経営理念のもとに企業活動が営まれています。

成熟度のレベル  
 チェックを外す

- 0. 経営理念の必要性を認識していない (経営理念はない)
- 1. 経営理念の必要性は認識しているが、成文化されておらず、その対応は偶発的
- 2. 経営理念が成文化されているが、社内での共有の仕組みが不十分で、その対応は個別、部分的
- 3. 経営理念は体系的に成文化されており、社内での共有に向けた仕組みがあり、全社的に取り組まれている
- 4. 経営理念は日常的に社内でも共有・実践され、社員の仕事の判断基準となり、その仕組みは定期的に見直されている
- 5. 経営理念は社風となり、社員は生き生きと働き、経営理念を通して顧客や地域から自社の商品・サービスが高く評価されている

▶ 次の質問へ

## 激動をよき友に~困難なときにこそ本音で語り合える場へ

経営者が自主的に参加し、運営し、経営体験を本音で語り・学び合い、経営者として人間として成長する、経営者の学びの場・成長の場として会員が活動しています。

### 《ご入会について》

中小企業の経営者、または後継者など経営者に準ずる方で、会の趣旨に賛同される方であれば、ご入会いただけます。

【会費】 入会金：1万円 月会費：7千円 (会費は3ヶ月前分納になります。)

※ご入会については事務局へお電話ください。電話 **019-626-4477**

同友会は、どんな問題でも窓口は事務局一本で、親身に素早く相談にのるのが特色です。



# 支部・地区・委員会ほつとライン

## 県北支部

「壁をつくっているのは自分自身だった」

8月31日(火) 県北支部・山麓地区例会が開催されました。

岩手県独自の緊急事態宣言により、当初予定していた公共施設から会場を(有)小川原自動車钣金新事業部キヤリアベースの事務所兼ショールームに変更して行いました。

報告者には、(株)松原農場 松原宏樹氏をお迎えし、「壁をつくっているのは自分自身だった」をテーマに報告していただきました。



松原宏樹氏(左)

松原氏は、会社員を経て16年前に家業である「松ぼっくり」で産直の立ち上げに伴い、父親である社長から声をかけられたのがきっかけで入社しました。家族それぞれが役割分担し、忙しい時はお互いにフォローし、一番の売りであるジェラートの売上が好調で推移していきますが、これまで自社の経営課題について、家族でじっくり話し合うことはありませんでした。様々な課題が浮き彫りにされて何とか解決したいという気持ちが強くなっていきますが、社長と話してもなかなか納得のいく回答を得られず、自分の悩みは増す状況でした。しかし、社長は企業としての体制を確立したいとの思いで、昨年法人化に踏み切りました。

「壁をつくっているのは自分自身だった」

### 実状を受け止める覚悟とは

ジェラート部門は様々な地域の食材を生かしたコラボで、新商品を開発。売上は順調に伸びていましたが、設備投資やその後の機械の更新などに必要な資金計画など、会計事務所からのアドバイスを聞くと、今後まだまだ経営上



でやるべきことが沢山あることがわかってきました。もっとも自分自身が勉強していかなければ、と考えることが多くなってきたと宏樹氏は言います。

そんな中、近隣でわざわざ栽培を生産している企業が事業から撤退を知った社長は、一部を譲り受けわざわざ栽培を手掛け始めました。販路も確立されているわけではなく、どうするのだろうか、と宏樹氏は思っていました。が、ほどなく社長の思いに気づいていきます。

「長山街道を地元の人たちと協力して、沢山の人たちがわざわざ目ざして来なくなる場所にした」そんな思いで、わざわざ事業の拡大をしようとしていたことがわかります。

自分の悩みが小さなことだったと気づき始めました。

### 行動するのは自分

悩んでいても何も解決しません。「思いを形にしていくなかには行動しなければ」その思いはどんどん膨らんでいきます。「手探りしながらでも、どんどん追求をしていきたい」との宏樹氏の熱意にグループ討論に参加した皆さんの応援の気持ちは最高潮になりました。

今回の報告では、経営の足をきちんと固めることの大切さや組織、体制づくりについて、そして安心安全を形にしていくなかの重要性など、様々な視点から見て考え、実践していくことがいかに大切かを、あらためて学んだ例会でした。(文・晴山祐一氏)

## 紫波花巻支部

紫波花巻支部は支部創設以来初めて、8月20日(金)、8月25日(水)、8月30日(月)と3回に分けて小グループ活動をオンラインで開催しました。

紫波花巻支部はこれまででも例会への参加人数が多い支部でしたが、昨年からのコロナ

禍の中で、月例会はオンラインと会場参加のハイブリットで開催しており、なかなか以前のよう賑やかなグループ討論の場や、例会終了後も名残惜しそうに続く語らいの場が少なくなっている印象がありました。支部会員が一斉に集まる事が難しいこと、また参加者が固定されてきているという課題がありました。

### 皆が集える場を模索した幹事会

そこで、どうしたら皆さんが集える場を再び作れるか。行事に参加してもらえなさを幹事会でじっくりと議論しました。その結果、盛岡支部で実践し全国からも注目されるようになったオンラインでの小グループ活動を紫波花巻支部でもやってみよう、ということになりました。

支部の会員を小さなグループに分け、短時間で今の状況を情報交換する場を設けたらどうか。また盛岡支部に習って、会員の誰でも報告者になって、企業の取り組みを紹介したり、社内を映像で中継して紹介したりと、オンラインでの短時間開催で、新しい会員の方も気軽に参加しているという事例もあるのでぜひ真似てやってみよう、と9月

開催の運びとなりました。方法として各グループのグループ長（先導役）、サブグループ長を幹事の中から選出、最近参加がない方や、会員であっても一度もお会いした事がない方々を中心に声をかけ、案内チラシをもって直接訪問しようと決めてスタートしました。

### 温かい雰囲気ですスタート

会員38名を3つのグループに分けて行いましたが、いずれのグループとも「お久しぶりですね。最近はどうですか」「初めましてよろしくお願います」などと温かい雰囲気で始まりました。



久しぶりに参加された方からは「暫く参加していなかったけど、今回のコロナの影響や、自社の課題などをグループ長のリードで、腹を割って話すことができた。一人で悩んでいないで話すことで解決のヒントが掴めると思った。」

「短時間だったがオンラインでも直接会っているかのように率直に話せて、とても充実したグループ会だった。ぜひ、次の機会も期待している」というような感想がありました。

支部長の瀬川氏（紫波環境（株）代表取締役）は、「支部では、この小グループ活動をきっかけに、支部会員の活性化と、会員同士の絆をより深め増強にも繋げていきたい」と今後の意気込みを話されました。第2回目は来年、1月に開催する予定です。

### 盛岡支部

#### 故人や先祖を弔う心を大切に

8月27日（金）、盛岡支部8月例会がオンラインで行われました。今回の例会は、今年6月に発表会を終えたばかりの第15期人を生かす経営・経営指針実践塾を受講した、(有)昆石材店の昆卓広氏より

「経営指針を受講して見えてきたもの」事業承継と今後の展望をテーマにお話しいただきました。

昆石材店は、古くから二戸市浄法寺を本社に続けてきた石材業です。今回報告者として立っていただいた卓広氏が仙台の石材店での修行から戻ってくるのを契機に盛岡店を出店、墓石の販売をしてきました。

卓広氏は次期社長として来年、会社を継承することになっていきます。「そろそろ経営の勉強を本格的にやらなくては」と思いながらも決意や危機感もなく、なかなか一歩先に行けない状況でした。青年部の後継者仲間がどんな経営指針を作成し、社長としての決意を固めていくなかで、なかなか決断できない状況にありました。最終的に「経営指針実践塾」の受講を決めたのは、やはり青年部仲間からの後押しでした。

#### 問いから気づいたこと

卓広氏は4ヶ月間の実践塾の受講中に、たくさん先輩経営者から、「何のために石材業を営むのか」など繰り返し問いかけられるなかで、それまで当たり前と思っていた、お墓に対する考え方



が、お客さんの考えと違っていたことに気づきます。

お墓を建てるのは仏教だけでは限りません。長男以外が建ててもいいことや、夫婦両家に墓があることも良いなど、知られていないことが多くありました。まずは現状をきることがあることにも気づきます。

卓広氏が盛岡に帰ってきて手がけた墓石の中でも、大きなショックを受けたエピソードも紹介されました。何度もお会いしお客様のご要望を実現できなかったはずでした。しかしながらご契約直前でお断りされ、近隣の同業者から購入されることになりました。そこで懇意にしていた同業者であったため、実際にご注文

ただいた墓石を見せてもらったところ、全く打ち合わせをしていたものとは違うものでした。お客様の本当の思いが違ったことに大きなショックを受けたと同時に、こちらから提案していくことの必要性を痛いほど感じたと言います。

#### お客様の想いに寄り添い、声なき声に向き合うこと

待っていてもお客様のほうからおいで戴くような、昔の古き良き時代を経て、大きくニーズも変わってきています。先祖への供養や弔いの心が大きく変化する中、石材店も時代の変化に対応することが必要です。そのためには、自社の有るべき姿を描かなくてはなりません。

卓広氏は、故人や先祖代々を弔う心を大切に、衷心を育めるような地域への取り組みも描いています。その考えが明確になったのが今回の実践塾でした。そして、それが昆石材店のビジョンのヒントになり、それが、自分の確信にもなりました。

この間、三内丸山遺跡や陸前高田の先輩石材業の方を訪問し経営理念を学ばせて戴いたりこれまで取り組んだことのない、石材業の未来を深く見つめる実践を続けて来ま

した。卓広氏は話します。「私は墓石を彫ることも、施工することもできません。お客様への想いに寄り添い、声なき声に向き合っていくことだと思っています。今後は、お墓に対してより柔軟な考えを持ち、変化する世の中で立ち止まっているお客様に丁寧にアプローチしていきたい。」

今回の盛岡支部例会は、卓広氏の実践塾での自身の変化と気づき、自分を見つめた率直な例会報告に、参加者もコロナ禍の中での自社の存在意義を深く考えた時間となりました。(文・下村善勝氏)

## 青年部会

### 全国から次代を担う青年経営者2,500名が集う!

9月9日(木)第49回青年経営者全国交流会form岐阜がオンラインで開催されました。スローガンには「日本(ヒノモト)の中心へ集え、麒麟児よ!」と理念経営を貫くことが未来を切り拓くことで、47都道府県および中同協から全国約2,500名が参加しました。

分科会は19分科会に分かれそれぞれ学びました。岩手同友会では「震災から10年

という枠で第19分科会を担当。陸前高田市のキャピタルホテル1000を会場に「どんな環境でも、決して繋いだ手を離さない」と気仙支部の東日本大震災から10年の軌跡というテーマで(株)八木澤商店 代表取締役 河野通洋氏よりご報告いただきました。

### 6ヶ月間の準備で学んだ大切なこと

岩手同友会の青年部会では、この分科会を担当し進めていく上で、約6カ月かけて準備してきました。この間、座長の猿子祐太青年部会長(有)猿子園芸 代表取締役)を中心に、吉田巧副部会長(岩手)日化サービス(株)代表取締役(杜陵テクノ(株)代表取締役)が「チーム青全交」として、報告者の会社訪問と打合せ、2021岩手同友会青年部総会記念講演、岐阜同友会とのZoom打合せ、会場のオンライン中継設営、岐阜同友会主催の河野氏の例会報告。そして当日の会場準備など、昼夜問わず何度も打合せを重ね本番に臨みました。

衝撃を受けたのは、河野氏からの一言でした。「震災の時、岩手同友会が発災直後か

らどんな行動を取り、この10年歩んできたのか、学ぼうとしたことはあったのか」。当時はまだ学生であったり、後継することをまだ決めていなかったりと、青年部のメンバーの中でも、実際に被災した直後の陸前高田で復旧復興に取り組んだのはほんの僅かであることがわかりました。

それから岩手同友会の菊田事務局長を訪ね、当時の3万枚にもおよぶ写真を見ながら、岩手同友会の動きや全国の支援がどのようにつながっていたのかを知ることになりました。

### 10年後の未来を担うのは我々青年部

青全交当日は全国から120名が岩手の分科会に参加し、河野氏の報告を聞き、16グループに分かれそれぞれ熱心な討論になりました。想定していた参加人数よりも多くの方々に参加戴きました。その分オンラインでのグループ数も多くなり、岩手の青年部会で担う予定だったグループ長の数も間に合わない状況となりました。

そんなときに力になってくださったのが、岐阜同友会の19分科会担当の廣瀬室長はじめ、沢山の実行委員の皆さん

でした。グループ討論のテーマや最終的に分科会としてどこを旨とすかなど、夜中までオンラインで語り合った時もありました。めげそうな時に、何度も励ましてくれる仲間があったことが、今回最後までやり抜く力となりました。

最後に19の分科会から選ばれ、2,500名の参加者の前で座長のまとめをした猿子氏は、「この分科会設営は青年部にとって団結力と『何のために』をあらためて深く学びました。コロナ禍で色々制約がある中で、できないではなくどうやったから全国の皆さんに伝える事ができるかを考えました。まず原点を知ろうと震災から10年の岩手同友会の歩みを学びました。

また、報告者と打合せする中で、決して繋い

だ手を離さないという本質と関わり合いの大切さを知ることができました。10年後の未来を担う我々青年部。今回の大きな学びを自社経営にも生かし、仲間と共にさらに学んでいきたい。私たちのつくる未来に期待してください」と全国に発信、止めどない拍手の中感動のうちに終えることとなりました。(河野氏の報告記事は次号に掲載いたします。)



(左から)猿子氏、川村氏、河野氏

## ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール  
1972年長崎県生まれ  
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業  
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

## 異なる環境に身を置くことの意義

9月中ばから、子供たちの学校の新学期がスタートしました。ドイツは州ごとに休み期間がずらしてあって、私が住む南のバーデン・ヴュルテンベルク州は、夏休みが一番後ろにセッティングされています。南の州の人たちが、まだ学校と仕事で慌ただしくしている6月末に、北の州の人たちが、家族でシュヴァルトヴァルトの農家民宿で休暇をしていたり、北の州の人たちが日常に戻っている8月末に、南の州の人たちが、北海やバルト海でちょっと冷たい海水浴を楽しんでいるたりします。

6週間の夏休みが終わわり「忙しく規則正しい」生活が再開してから、今日でちょうど丸2週間になりますが、リズムに乗ってきたかな、という実感があります。3人の子供がいて、それぞれ時間割も

違っています。今日は1人がお昼に帰ってきてご飯を食べる日、今日は3人とも午後も授業ある、などなど。また夕方のスポーツや音楽の習い事の手配や、他の親との送り迎え分担のコーディネートも大変。3人それぞれ、別のスポーツ、別の音楽をやっているの。土日は試合やら遠征があったりします。5人子供がいる友達の家族は「うちはスポーツはみんなカヤックと決めてる。他の選択肢はない。オーガナイズできないから」と厳格な方針でやっています。うちは3人なので、なんとかギリギリ、個性と多様性を尊重できています。

私の家族は、夏休みは毎年、南欧か北欧の海のあるところに出かけて、潮浴をすることが恒例になっていますが、今年には、副業でやっている休暇用アパートメントのキッチンのリフォームがあったので、近場で日帰りバカンスをすることしました。長女は「へえ、どこにも泊まりに行かない

の?そんなの休暇じゃない」とブツブツ文句を言いました。今はサッカーが一番の長男は「クラブチームのトレーニングがあるし、それがいい日は友達とその辺でボールを蹴っている」と休暇はどうでもいいという感じ。末っ子の娘は「長い時間、車に乗って海に行くのは嫌だ。近くの動物がいる農家にだったら行く」と昨年と同じことを言いました。そんな反発や無関心や意見の相違がありながらも、近場の湖に湖水浴に行ったり、ハイキングをしたり、夜の街を徘徊したり、バルコニーでゆっくり朝食を取ったり、夕方涼しくなったときに庭仕事をしたり、合計すると丸2週間くらい、それなりに自宅からの日帰りバカンスができたかな、と思います。他の地域の人たちが休暇をする、贅沢な場所に住んでいるのですから。

でも何か物足りないものがあります。泳いだり、ボートに乗ったり、森を歩いたり、街でアイスを食べたり、ビアガーデンで飲んだり、やっていることは同じでも、自分たちが慣れ親しんでいるホームグラウンドでやるのと、別の地域、別の国でそれらをやるのでは、体感的に、大きな違い

があります。異なる環境、異なる文化の場所では、頭と体にインプットされている、無意識に行っているいつもの思考と行動が通用しないことに気づきます。違う場所に身を置くと、驚きや戸惑いがあり、疲れもしますが、これまで気づかなかったことに気づいたり、新しいアイデアが思い浮かんだり、普段使っていないかった脳の部位が刺激されます。個別に存在していたニューロンが、新しくシナプスでつながります。

来年は、再び外国の海に出かけようと思っています。違った環境に身をおくことでの、脳の活性化を促すリフレッシュ効果を求めて。同じ効果は、別の文化圏、生活圏の人たちと交流することでも得られます。私は、コロナの前は、年に数百人の日本からの視察訪問者の方々とドイツで交流していましたので、普段のドイツの日常に、日本からの風を絶えずもたらっていました。強制的に休業させられて、もう直ぐ丸2年。オンラインでの交流もあり、バーチャルな風は受けて、健康に生きてはいますが、そろそろ異質の生の風の補給が必要かもしれません。来年は、岩手のみなさんと再び生の交流を!

# 素心知困

岩手県の独自の緊急事態宣言のなか、約2千人が入るコンサート会場は、満員のお客様。それなのにどんなに盛り上がりとうと拍手だけの「声援」。▼終盤に女性ヴォーカリストが話始めました。「楽屋で一人で食べるお弁当の包みに、こんな言葉がありました。『長く自粛が続く中、こうして岩手においてくださって、音楽で励ましてくれる。いかに大変なことか。あなたがたのようなアーティストがいるから、私たちは頑張れる。』」▼そして続けました。「私たちが東京からこうして地方にやってきて、今歌っていて、いいのだろうか。スタッフと悩みながらここに立っていた。むしろ励まされたのは、私たち。涙で一杯になった」▼どの会社が届けたお弁当か、すぐわかりました。経営理念は「今日がより愛おしく思える 出会い つなぐりを 地域から『いただきます』でつなげます」。▼「何のために経営するのか」と、いつも私たちは問いかけています。私たち中小企業があり続ける答えはここにあるのではないのでしょうか。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。  
 ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。  
 ■本紙掲載の事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。



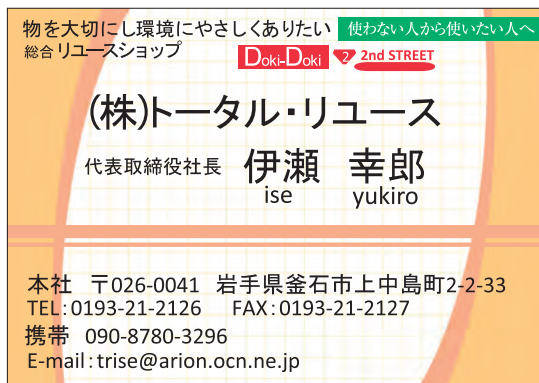
**めだか**  
 有限会社いわてにっかコミュニティ企画  
 (事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム  
 児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援B型



**オリジナルラベル ワインを作成します**  
 周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等  
 自園自産ワイン 紫波 社名ロゴ 写真OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料  
 岩手県紫波町産ぶどう100%  
 お申し込み・お問い合わせ  
**Tel. 019-676-5301**  
 自園自産ワイン紫波 (株)紫波フルーツパーク  
 醸造元 〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11



注文すると「明日」来る。  
 オフィス・事務用品通販なら「アスクル」で  
 日用品 消耗品 文房具 飲料 工具  
 外出せずにFAX、Webにてご注文できます！  
 ご登録・お問い合わせは平金商店へお待ちしております。  
<https://www.askul.co.jp/ag/hirakin/>  
**ASKUL AGENT 株式会社平金商店**  
 アスクルエージェント TEL:019-624-2121



物を大切にし環境にやさしくありがたい 使わない人から使いたい人へ  
 総合リユースショップ Dok-Doki 2nd STREET  
**(株)トータル・リユース**  
 代表取締役社長 伊瀬 幸郎  
 ise yukiyo  
 本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33  
 TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127  
 携帯 090-8780-3296  
 E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp



ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで  
 真の循環型社会を目指します。  
 浄化槽保守点検 植物 光触媒 CO2 エネルギー 植物 BDF燃料 BDFの製造・販売 食用油 燃料化  
**紫波環境株式会社**  
 岩手県紫波郡紫波町南日語字小路口70-1  
 TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686  
<http://shiwakankyo.com/>  
 し尿・浄化槽汚泥収集運搬



包装設計のプロフェッショナル「東北ウエノ」は、  
 「適材適包」でお客様をサポート致します。  
**「PACKAG ENGINEERING」**  
 詳しくはホームページで <https://www.touhokuueno.co.jp/>  
**株式会社東北ウエノ**  
 〒021-0893 本社：一関市地主町3-35 TEL:0191-21-4531  
 テクニカルセンター：一関市地主町7-15 TEL:0191-32-5020  
 輸送包装便覧.com <https://www.transport-package.com/>



**Southern Iwate DSG** サザン岩手ドライビングスクールグループ  
 Southern Iwate Driving School Group  
**陸前高田ドライビングスクール** 三陸技能講習センター  
 RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center  
**平泉ドライビングスクール** 遠野ドライビングスクール  
 HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHONO DRIVING SCHOOL  
 携帯サイトはこちら  
<http://www.si-dsg.com>  
 /mobile



人と自然にやさしい  
 環境を創り  
 地域型企業として  
 貢献します。  
**岩手日化サービス株式会社**  
 IWATE IKKA SERVICE  
 〒020-0402 盛岡市黒川 22-56  
 TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

DOYU I W A T E 同友いわて 2021 Vol.153  
 発行 / 岩手県中小企業家同友会 広報委員会  
 2021年10月1日発行  
 〒0200878 岩手県盛岡市着町4-5 カガヤ着町ビル3F  
 TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644  
 Mail: info@iwate.doyu.jp